

事務事業名	妊婦・乳幼児健康教室事業	事務事業No.	10203000338	所属課	健康推進課
(4) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？ パパ・ママクラス（現：マタニティクラス）については、S41年に母子保健法が施行され、それに基づき、保健センター設置当時より妊婦を対象に開始。H11年男女協働参画基本法が施行され、夫婦で子育てができる環境整備を図るようになった。乳幼児健康教室については、H22年度より子育て支援センターと協力して実施。現在子育て支援センターの事業に移行している。令和2年度は新型コロナウイルスの影響で全日程ともに中止。その対応策として希望者には個別にて分娩指導・沐浴指導を実施した。					
(5) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？ 新型コロナウイルス感染症の影響で医療機関でのマタニティクラスが軒並み中止になっているため、個別での対応を行ったことに対し、「テキストだけではイメージできなかったのが話聞いてよかった」「旦那さんと参加できてよかった」との反応を得ることができた。					

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評価項目	
改革改善を行う	①政策体系との整合性（この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？） <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 教室に参加することで、安心して妊娠・出産・育児ができるようになることは、子育て支援に結びついている。妊娠期から接点を持つことで、切れ目のないかわりができる。
有効性	②公共関与の妥当性（なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？）（法定受託事業はその名称） <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である コロナ禍でマタニティクラスを行わない医療機関も多く、出産に対する不安を抱えたまま出産に臨むのはあまりにも酷なことであるといえる。その為市として出来る支援は行っていくべきであるといえる。
効率性	③成果の向上余地（成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？） <input type="checkbox"/> 向上余地がない 集団での実施を中止していることから親同士の交流を期待している妊婦は希望しない可能性がある。現在マタニティクラス希望者には全員個別で対応している。しかし今後希望者が増えた場合などは、業務量・人員的に対応が困難になる可能性がある。
公平性	④廃止・休止の成果への影響（事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？） <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 集団での実施が出来ておらず、親同士の交流を期待する妊婦の期待には応えられないという点では現状同じである。しかし個別での分娩・沐浴指導すらも廃止した場合には、妊婦の出産育児への知識習得の場はなくなり、不安軽減は図れないといえる。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性（類似事業や統廃合の可能性はありますか？（市以外の取り組みも含む）） （他に手段がある場合） <input type="checkbox"/> 具体的な手段、事務事業名 <input type="checkbox"/> 余地がない マタニティクラスについては、対象者が限定され、類似事業がないため、統廃合は難しい。
	⑥事業費・人件費の削減余地（成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？） <input type="checkbox"/> 削減余地がない 集団の実施が可能だとしても雇いあげ助産師で1回2時間依頼しているのみであるので削減余地はない。現在スタッフが個別で業務時間内に対応している。1人当たり2時間程度は要してしまうが、今以上の時間的削減は内容の軽薄化につながると思われる。
	⑦受益機会・費用負担の適正化余地（事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？） <input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 母子手帳発行時に全員に説明実施。また集団実施時は各クラス対象者に通知にてマタニティクラスの周知をしている。ホームページ、健康カレンダー、広報誌にも掲載している。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性（次年度計画と予算への反映）

(1) 1次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		(2) 全体総括（振り返り、反省点） 平成30年度より土・日開催の要望にて土曜日に開催した。平日より参加数も増加し、パートナーの参加率が良かった。実施内容は医療機関で実施しない育児体験等、特に沐浴や助産師の講話、マタニティヨガは妊婦に好評である。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で集団での開催を中止し希望者に個別対応した。内容は沐浴体験が多かった。																						
(3) 今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止		(4) 改革・改善による期待成果（終了・廃止・休止の場合は記入不要） <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		○																					
	維持																							
	低下																							
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策 要望や参加状況からも、パートナーと参加できる休日開催の回数の検討が必要である。パートナーとの育児体験が主眼であれば、コロナ禍において個別対応の検討も必要ではないか。令和2年度の導入した母子手帳アプリにおいて、浴動画が閲覧でき、またオンライン相談と併用で不安の解消も図れるのではないかと推測する。今般の状況を踏まえて、マタニティクラスへの要望を再確認する必要がある。																								
(6) 事務事業優先度評価結果 成果優先度評価結果		⑤																						

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価		(2) 部長確認及び評価（課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合）	
課長確認後の評価 <input type="checkbox"/> B A：継続（現状維持） C：終了、廃止、休止 B：継続（改革改善を行う） D：2次評価へ提出		確認欄 <input type="checkbox"/>	